

# カリキュラム

機構施設名：北海道職業能力開発促進センター  
 実施機関名：学校法人産業能率大学

<b>B.生涯キャリア形成</b>	<b>技能・ノウハウ継承</b>	<b>効果的なOJTを実施するための指導法</b>
-------------------	------------------	---------------------------

<b>コースのねらい</b>	後輩従業員へのノウハウの継承を目指して、中堅・ベテラン従業員が持つ経験や技能をOJTを通じて後輩従業員に伝達するための知識と技能を習得する。
----------------	------------------------------------------------------------------------

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	
	1	人材育成のプロセス	(1)人材育成の全体像 ・指導育成の全体像と共に教えることで自身も育つという教える側のメリットを理解します。 ・過去に受けた指導を振り返り、自分達の経験から後輩指導を進める上でのポイントを整理します。 ・指導する側はメンバーの指導を通じて、メンバーの成長を実現するとともに、自身にとってもさまざまなメリットを得られることを確認します。	1.5
	2	効果的なOJTの進め方とポイント	(1)効果的な指導育成(OJT)の進め方OJT計画作成の必要性 OJTのポイントである計画性や重点化(「誰に・何を・いつまでに・どのレベルまで」を意識できているか?)について確認します。 また、自身の経験を振り返りながら指導育成のポイントと留意点を学習し、計画的に育成を行うためのOJT計画書の必要性を理解します。	1.5
	3	現場で活かせる実践的指導法	(1)主体性を引き出すコーチングスキル 指導内容や指導場面によるティーチングとコーチングの違いを理解すると共に、指導対象者の主体的な行動を促す「ビジネスコーチング」の基本的な考え方と進め方を演習を通じて習得します。 ・内発的動機づけとは ・状況説明 ・発問 ・傾聴	3.0
<b>合計時間</b>			6.0	

<b>カリキュラム作成のポイント</b>
本カリキュラムでは、中堅・ベテラン従業員が持つ経験やノウハウを後輩従業員に伝承する際、後輩従業員が「私がやるべきことだ」「ぜひやってみよう」と考え、主体的に技能伝承を受け入れてもらえる指導法を習得することを目指します。具体的には、コーチング手法を活用したカリキュラムとなりますが、一般的なコーチングが「全人格的な成長支援」を目指しているのに対し、本カリキュラムでは「ビジネス現場における能力(知識・技能・態度)の成長支援」を目指しています。一般的なコーチングよりも、受講者にとって身近であり、活用しやすいスキルに絞って学習を進めます。

<b>訓練に使用する機器等</b>	
<b>●機器・ソフトウェア(受講者用)</b>	<b>●機器・ソフトウェア(講師用・その他)</b>
特になし	講師用PC(講師持参)
<b>●使用するテキスト</b>	<b>●その他</b>
・本学作成テキスト	

<b>利用事業主に用意を求める機器等</b>	<b>備考</b>